

金沢大学社会教育研究室のあゆみ

(その十四)

昭和四十九年度（第十七年次）

金沢大学教育学部社会教育研究室的あゆみ（その十四）

自 昭和四十九年四月一日
至 昭和五十年三月三十一日

(一) 昭和四十九年度事業実施概要

(二) 社会教育研究室運営委員会委員

(三) 社会教育研究室研究員ならびに事務局

(一) 昭和四十九年度事業実施概要

1 入室式

五月十一日 十四時—十六時三十分

式次第

あいさつ 小松室長

研究室概要説明 古野主事

研究員自己紹介、研究部会説明

記念講演「加賀藩の社会教育」

法文学部教授 橋本芳契

昭和四十九年度の入室者 一五一名

2 原理研究部門

四月十日

議題一 文部省委嘱開放講座実施計画について

二 昭和四十八年度決算、昭和四十九年度予算案について

三 研究生応募状況について

四 夏期開放講座（地方講座）昭和四十九年度の状況について、この講座の分担について

五 研究室の機構、協力会の組織整備について

六月十一日

議題一 夏期地方講座について

開催希望教育委員会との打ち合せ日程及び希望テーマについて確認

二 その他

十月三十日

議題一 年報第一四号について

執筆者及発行日程の決定

二 その他

十二月十八日

議題一 期報発行の件

・編集委員制の採用

教官 古野有隣

研究生………

・内容、部会便り

研究室からのお知らせ

(行事の報告、予告、新着図書、動静など)

・投稿(教官、研究生)

二年報の件

・執筆者 沢田忠治 橋本芳契 豊田文一他

出雲路暢良 古野有隣

・メ切 一月中旬

・発行 三月

三 調査の件

・テーマ 未定

・組織 担当 古野有隣、多田治夫

協力者対象教育委員会主事

・実施 一月下旬—二月上旬

。集計 三月末

・年報十五号に報筆

四 その他

昭和五十年一月二十三日

議題一 調査について

テーマ「民間教育事業及受講者の実態について

の調査」

対象「北国文化センター」

「朝日カルチャセンター」

「石川県婦人家庭教育学級参加者」

内容 1 参加させた要因

2 何を得ているか

3 満足感(程度、内容)

4 事業の内容運営意図

(社会教育の今後の方角あるべき姿の考慮)

二 来年度計画

1 部会数

2 研究員の充実

3 研究生の募集

三 四十九年度期報の件

四 その他

三月三日

議題一 昭和五十年年度研究室の運営、計画等について

二 その他

3 学内開放講座

(1) 社会心理学研究部会

指導教官 金沢大学医療短期大学部教授 沢田忠治

金沢大学開放講座に互して受講

テーマ 「現代日本を考える」

六月十三日―九月十九日迄の間、十一回開催

(2) 社会思想研究部会

指導教官 金沢大学教授 戸頃重基

テキスト「仏教と社会との対話」戸頃重基著

昭和四十九年中 八回開催

(3) 仏教思想研究部会

指導教官 金沢大学教授 橋本芳契

テキスト「選択本預念仏集」

昭和四十九年中 七回開催

(4) 相談心理学研究部会

指導教官 金沢大学助教授 多田治夫

受講者の学習要求を四個のテーマにまとめ夫々小集

団をつくって学習した。

(5) 昭和四十九年中 九回開催
人間と自然研究部会

指導教官 金沢大学助教授 木村久吉

学習内容

「人間にとって自然とは何か、自然を征服することを通して生活を拡大してきた人間が自然の重要性を知ろう」

(6) 昭和四十九年中 七回開催

比較思想研究部会

指導講師

学習内容

松尾宝作

「東洋思想と西洋思想の比較研究を学習した」

(7) 昭和四十九年中 十回開催

都市問題研究部会

指導教官 金沢大学助教授 岩男耕三

学習内容

「急激な工業化が国土の荒廃をもたらしたことをどうしたらよいかを自分達の目で問題を究明する」

(8) 昭和四十九年中 八回開催

女性セミナー

指導教官 金沢大学助教授 多田治夫

古野有隣

学習内容

「主婦、女性の生き方をめぐる諸問題を学習した」

昭和四十九年中 十二回開催

4 学外開放講座(その一)

(1) 県内地元教育委員会と共催で、主として夏期休暇中

に左記二十三会場において八十講義(一講義二時間)を実施した。

受講人員延四一〇一名である。

富来町会場	三講義	珠洲市会場	三講義
七尾市	四	山中町	五
根上町	三	志賀町	三
高松町	三	美川町	四
鶴来町	四	穴水町	三
津幡町	五	柳田村	三
宇ノ気町	三	河内村	五
松任市	四	能都町	三
門前町	三	七塚町	三
加賀市	三	田鶴浜町	三
鳥屋町	四	中島町	五
小松市	一		

詳細は期報43に記載

5 学外開放講座(その二)

文部省委属大学開放講座を金沢市中央公民館で二講座

(1) 現代日本の社会を考える

(2) 現代の価値観

を実施した。

詳細は期報43に記載

6 調査研究部門

北国文化センター、朝日カルチャーセンター受講者ならびに石川県婦人家庭教育研究会参加者を対象として(約千名)、民間教育事業の実態および市民の学習活動促進のための方策を見いだすための調査を実施した。

結果については年報「社会教育研究」第十五号で報告

7 刊行

年報「社会教育研究」第十四号

期報42(前・後期合併号)

を発行した。

8 図書資料の収集 一三八点

(二) 社会教育研究室運営委員会委員

小松	周吉	教育学部長
戸頃	重基	法文学部教授
古野	有隣	教育学部助教授
出雲路	暢良	

(二) 社会教育研究室研究員ならびに事務局

研究員	幹事	主任幹事	主事	室長
出雲路暢良	戸頃 重基	新谷賢太郎	古野 有隣	小松 周吉
岩男 耕三	教育学部助教授	出雲路暢良	教育学部助教授	教育学部助教授
木村 久吉	教育学部助教授	法文学部教授	法文学部教授	法文学部教授
新谷賢太郎	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
多田 治夫	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
柳原 麻夫	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
多田 治夫	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
新谷賢太郎	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
青木 應司	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
幹事	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
高木 敏男	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授
高木 直	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授	教育学部助教授

書記

戸頃 重基	法文学部教授
二宮 哲雄	〃
橋本 芳契	〃
古野 有隣	教育学部助教授
矢ヶ崎孝雄	〃
高木 直	〃
西村四郎市	事務局長

(専任)